

附

錄

○附 錄

地 質

本縣ノ土壤ヲ構成スル岩石ハ火成岩、及水成岩ニシテ

(一) 花崗岩地ハ各地ニ現出スレモ各其占ムル所ノ廣袤甚タ狹隘ニシテ敦賀郡ノ南部足田村地方及三方郡耳川ノ東西ニ於ケル地方ニアルヲ以テ其面積較大ニシテ多少農業ニ關係ヲ有スルモノトス其他敦賀及三方ノ兩郡ニ跨リ半島形ヲナス土地ヲ構成スル本岩地亦大ナレモ地勢最モ山嶽ニ富ミ耕地ハ山腹傾斜ノ地ニ於テ散在スルノミ

(二) 石英玢岩地ハ大野郡ノ各所及吉田、足羽ノ兩郡ニ跨リテ現出スレモ其面積大ナラス其地勢亦峻嶮ニシテ耕耘ニ適スルノ地甚狹少ナリ

(三) 火山岩地ハ三大區域ニ分レテ現出シ其廣袤甚タ大ナリト雖モ現在ノ耕地ハ甚タ狹少ナリトス本地質ニ係ル土壤ハ角閃安山岩或ハ輝石安山岩ノ分解シタル者ニシテ其表面ノ土壤ハ概シテ埴土ナリ

(四) 片麻岩地ハ大野郡ノ各地ニ露出スレモ其廣袤何レモ極メテ狹隘從テ耕地面積亦甚タ狹少ナリ

(五) 閃綠岩及蛇紋岩ハ敦賀及大飯郡ノ一局所ニ露出スレモ重ニ峻嶮溪谷ノ地ニ屬シ土壤ヲ構成スル面積甚タ狹隘ニシテ土性トノ關係薄ク且將來農業上大ニ望ヲ屬スヘキ地性ニアラス又石英斑岩ノ如キモ大野郡ノ各所ニ點々露出スルト雖土地險阻ニシテ稼穡ニ適スル土壤ヲ構成スル面積亦狹少ナリ

(六) 古生紀岩地ハ本縣中最大區域ヲ占メ其北端ハ今立及丹生ノ兩郡ニ起リ南條郡ヲ貫キ南延シテ近江國及敦賀郡ニ入り同郡ノ中央ニアル花崗岩ニ切斷セラレ再ヒ同郡及三方郡ノ境界ニ露出シ若狹國殆ント全部ヲ貫キ近江、丹波、及丹後ニ入ル又本縣ノ東北隅ニ於テ小面積ノ土地ヲ構成ス此ノ如ク最廣濶ナル土地ヲ占領スレモ土地悉ク峻嶮ニシテ山嶽高峰或ハ丘陵傾斜ノ地ニ屬シ耕耘ニ適應セルノ地ハ實ニ狹少ナリ而シテ其地形ヲ見ルニ山腹傾斜ノ地或ハ溪流河岸ニ沿フテ星點スルニ過キサルナリ

(七) 中生紀岩地ハ本縣中各地ニ露出スレモ其廣袤概シテ大ナラス然レモ獨リ大野郡ノ東南隅ニ現出シ越前美濃ノ國界ニアル山脈ヲ構成スルモノハ其面積較々廣濶ナリ而シテ本岩地ノ地勢ハ概シテ山嶽峻嶮農耕地トシテ使用スル面積ハ甚タ僅少ニシテ重ニ山腹傾斜ノ地ヲ耕耘シ平坦ナル土地ハ極メテ僅少殆ント之ヲ見サルナリ

(八) 第三紀層ニ屬スル地ハ甚タ廣濶ナル部分ヲ占領ス本紀ヲ構造スル岩種ハ砂岩凝灰岩等ニシテ加賀國江沼郡及坂井郡ノ境界ヲナス山陵ハ本紀ノ岸石ヨリ成リ福井平原及今立郡鯖江四隣ヲ圍繞スル山陵丘阜亦本地層ノ構造ニ係ル者ニシテ漸次南ニ向ケ延長シ南條郡湯尾嶺ニ至テ止マル又丹生郡ノ海岸ニアル丘阜モ亦此地層ノ土地ナリ而シテ其地勢ハ山嶽高嶺ニ乏シク概シテ丘陵ノ形狀ヲ有スレハ多少斜面ヲナセトモ其度緩緩ニシテ或ハ平坦砥ノ如キモノアリ

(九) 第四紀古層地ハ本縣内本地質ノ構造ニ係ルモノ數ケ所ニ散在露出スレモ多クハ臺地ヲナシテ其區域甚タ狹少ナリ然レモ今立郡鯖江地方大野郡勝山町四近及同郡富田村地方ニ於テ或ハ原野ノ形狀ヲ現セモ平坦ナル耕地ヲ構造シ且市街ニ接近シ運輸ノ便アレモ農耕上重要ノ關係ヲ有スルモノナリ

(十) 第四紀新層地ハ本縣内最重要ナル農耕地ニシテ其沖積地ヲ區別スレハ左ノ如シ

(イ) 足羽郡ノ平地ハ足羽川ノ氾濫ニ際シテ沖積シタルモノニシテ其土性ハ埴土ナリ

(ロ) 大野郡大野町四近ノ平地ハ眞名川沖積地ニシテ本地方ノ中央部ニ於テハ埴土ナレモ漸次其周圍ニ至レハ石礫ヲ含有シテ礫質埴土トナル

(ハ) 大野郡勝山町四近ノ地ヨリ坂井郡鳴鹿村西部地方ニ至ル間ノ平地ハ九頭龍川沖積地ニシテ坂井郡ノ平地ハ悉ク九頭龍川、足羽川、日野川及其支流ノ働作ニ係ルモノナリ本地方ハ河川ノ平流區域ニ屬スレハ其漂積物亦細微ニシテ一般ニ埴土ナリ然レモ本河流ノ沿岸ニ至レハ屢河水氾濫シテ細粒ノモノヲ淘汰スレハ其土性ハ壤土ナリ又海濱ニ累積セル砂阜ニ接近スル地方ハ屢々風波ノ働作ニヨリ土砂ヲ飛揚シ之ヲ土壤中ニ混淆スルヲ以テ坂井郡西部ノ地方ハ砂土ヲ含有スル事多クシテ自然其土性ハ變シテ壤土トナル

(ニ) 南條、今立及丹生ノ各郡ヲ貫通スル沖積地ハ日野川及其支流ノ働作ニ係ル者ニシテ其上流ニ於テハ流勢急ナルヲ以テ其構造セル土性ハ壤質埴土ナレモ其下流ニ至レハ其水勢緩漫トナレハ隨テ其地方ノ表土ハ埴土トナリ下層ニ於テハ石礫ヲ混有ス

(ホ) 敦賀灣ニ瀕スル平地ハ河海ノ作用ニ依テ成リ海濱ニアリテハ海成沖積地ニシテ其土性ハ砂土ナレモ漸次内地ニ入ルニ從ヒ筮ノ川沖積地トナリ其土性ハ礫質壤土ナレモ其流末ニ於テハ石礫ヲ含有スルニ僅少ニシテ砂質トナル

(ヘ) 三方郡ノ海濱ニアル土地ハ海水ノ作用ニ依リテ成ルモノナレハ其土性ハ砂土ナリ又内地ニ於テハ河水ノ働作ニ依リテ沈積シタルモノナレハ其水勢ノ緩急ニヨリ其土性ハ埴土アリ礫質埴土或ハ壤土トナリ現出ス

(ト) 遠敷郡ノ海濱ニ亦海成沖積地アルモ最モ農耕ニ關係アルハ北川南川及其支流ノ沖積地ニシテ本地ハ全ク古生紀岩層ノ山嶺丘阜ニ圍マレタル一低地ナリ又北川、南川、及其支流ハ其ニ古生紀岩地ヨリ發源シテ其經過スル地方ノ地質

亦同一ナレハ其浮流沈積シタル土壤ノ性質ハ殆ント同一ニシテ其大体ノ地味ヲ等フス然レモ河流ノ緩急及平流域ノ長短ニヨリ其器械の組織ヲ異ニス即チ北川ノ谿流ニ於ケル沖積地ハ表土石礫ヲ含有スレハ其土性ハ礫質土ナリト雖モ田笠地方ヨリ下流ハ平流域ニ屬シ水勢緩ナルヲ以テ埴土トナリ又南川沖積地ハ稍粘質ニ富ミ之ニ適宜ノ砂粉ヲ夾雜スレハ壤質埴土ナリトス

(チ) 大飯郡佐分利川モ其水源及經過スル地方ノ岩層ハ南北兩川ノモノト同一ニシテ古生紀岩地ナレハ其沖積物ノ性質亦相類似ス高濱地方ノ平地ハ海潮ニ關スル器械的操作ニ依テ沈種シタルモノナレハ其性質大ニ前記ノ河水沖積土ト異ナリ其地方ノ山嶽及平源ノ地質ニ關係スル極メテ僅少ナリ
其他石灰岩層アリテ片麻岩、古世紀岩、中生紀岩等ノ中各所ニ露出シテ大野郡敦賀郡三方郡等ニアル者ハ其面積極メテ大ナリ

福井縣農會事業功程

明治四十年度ニ於ケル福井縣農會事業ノ大要左ノ如シ

會議 明治四十年度ニ於テハ通常總會臨時總會各一回ヲ開キ本會長ノ選舉其他本會歲計豫算決算及基本金、土功レール積

立金、耕地整理豫算ニ關スル事項七件ヲ議決セリ

郡農會技手協議會 明治四十年度ニ於テ第六回第七回各郡農會技手協議會ヲ開催セリ而シテ其協議事項及福井縣ヨリ注意

セシ事項ノ要領ヲ舉ケレハ第六回ニ在リテハ郡農會事業、人造肥料ノ需用供給、肥料共同購入、桑樹ノ植付、桑園等ノ

狀況如何及苗代ノ成績、郡農會農事試驗場ノ設置、講習講話及技術傳習等ノ如何ニ就キ或ハ縣廳ヨリ注意ニ係ル市町村

産米審査規程及輸出米検査ノ施行害蟲驅除豫防ノ厲行ニ關スル諸件ヲ協議シ第七回ニ在リテハ郡農會事業ノ成績、明治

四十一年度郡農會事業ノ計畫、各郡米作改良ノ狀況、各郡養蠶、家禽、麥作獎勵ノ方法、人造肥料ノ調査、農事講習所

ノ開設、重ナル農家副業及産業組合ノ狀況並之カ獎勵、苞蟲驅除ノ狀況如何等ニ就キ或ハ福井縣ノ注意ニ係ル産米改良

ノ督勵、稻種塩水撰及苗代田ノ取締、畜産、勤儉貯蓄、其他ノ農家副業獎勵桑苗圃ニ關スル事項ヲ協議シタリ

品評會 第一回夏期蔬菜果實及第二回家禽品評會ヲ明治四十年八月福井市ニ開設ス出品點數蔬菜果實五百九十八點家禽百

七十八點ニシテ之ヲ類別スレハ左ノ如シ

葉菜蔬菜果實及莖菜類

葱頭 二十點
甘藍 十九點

薑 十六點
パセリ 一點

葱 十四點
三ツ葉 一點

苣蒿 一點
帶草 一點

根 類

里芋 二十六點

甘藷 五點

牛蒡 十二點

胡蘿蔔 四點

馬鈴薯 六十七點

山葵 一點

百合 十一點

火焰菜 一點

茗荷 一點

大根 四點

菰 類

茄子 百十一點

ゴオウド 三點

大豆 九點

大豆 四點

胡瓜 六點

蕃椒 二點

西瓜 十九點

越瓜 一點

冬瓜 十一點

金柑瓜 一點

梨瓜 三點

果 實 類

梨 二十七點

葡萄 八點

玉蜀黍 六點

苹果 六點

桃 十八點

夏橙 一點

無花果 四點

刀豆 一點

○家 禽

雞 類

淡色ブラーマ 一點

パブコーチン 十七點

黑色コーチン 一點

名古屋コーチン 十三點

横班(澁班)フリマスロツク 十一點

白色フリマスロツク 二點

白色ワイアシドツト 一點

單冠白色レグホーン 十六點

單冠褐色レグホーン 二點

單冠黑色レグホーン 五點

白色ミノルカ 一點

黑色ミノルカ 五十一點

パフ、レグホーン 三點

アンダリユシヤン 六點

パフ、オーピングーン 二點

銀色爛班パンバルク 三點

黑色パンバルク 一點

金色ホーリツシ 四點

白毛冠黑色ホーリツシ 一點

ウダーン 二點

シヤム 十五點

チャボ 一點

南京シヤム 二點

金色セブライトパンタム 二點

其他ノ雞 五點

計 百六十七點

水禽類

鷺 四點

間鴨(鴨鷺) 三點

鷺ツローリス 一點

計 八點

又明治四十年十一月坂井郡三國町北小學校ニ於テ第十一回蔬菜果實品評會ヲ開設シタリ其出品總數二千九百七十點ニシテ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

葉菜類 五百十二點

根菜類 千五百二十二點

果實類 九百點

調製品 五點

參考品 三十一點

計 二千九百七十點

一農事講習會 明治四十年八月以來各郡ニ於テ短期農事講習會ヲ開催シ肥料、養蠶、害蟲論、養雞、林業、果樹栽培等普通農事ノ講習ヲ爲シタル結果其成績頗ル良好ニシテ初年ニ拘ラス開會十五回ニ對シ講習修了生六百名ヲ得タリ其細別ハ左ノ如シ

開會地	開期	學科	修了者員數
足羽郡 上文珠村	至八月七日	養蠶、肥料	四二
遠敷郡 西津村	同八月十二日	養蠶、園藝	四四
坂井郡 藁村	同八月十五日	普通作物、肥料園藝農業經濟	五〇
遠敷郡 松永村	同八月十九日	肥料、養蠶、耕地整理	七六
坂井郡 大關村	同八月二十五日	肥料、農業經濟、園藝	四八
坂井郡 加戸村	同十二月十六日	普通作物、肥料、農業經濟	五一
足羽郡 木田村	同二月十七日	肥料、園藝	二四
丹生郡 朝日村	同三月十四日	普通作物、肥料	四四
今立郡 中河村	同二月十五日	肥料、養蠶、農作物、蟲害	三〇
壽條郡 堺村	同二月十八日	養蠶	三三
大飯郡 高濱村	同二月二十日	農作物、病蟲害、林業	一〇

開會地	開期	學科	修了者員數
今立郡國高村	自二月十九日 至三月三日	肥料、園藝、養雞	三八
吉田郡松岡村	同三月十九日	普通作物、農作物、害蟲、養蠶	五〇
坂井郡金津町	同三月十七日	普通作物、肥料、農業經濟	三九
敦賀郡東浦村	同三月二十三日 同三月二十七日	養蠶	二二
計	最長日數 十四日 最短日數 五日		六〇〇

製絲用蠶種微粒子検査 明治四十年度ノ検査成績ハ一化性總數五千八百九十九枚ニ化性總數三百九十八枚ニシテ之カ類別及府縣別ハ左ノ如シ

一化性成績

名	稱	検査總數	合格數	不合格數	名	稱	検査總數	合格數	不合格數
光	吟	二二三七	二〇四九	一八八	小	石丸	一〇二	九九	三
又	蠶昔	一〇二八	九五三	七五	小	錦	二〇	一八	二
青	熟昔	一〇八一	一〇六一	二〇	飛	白	二二	二二	〇
長	巢又昔	五二	五一	一	中	巢	二四	一八	六
絹	一又	四三五	四三三	二	櫻	巢	二	一	一
常	陸	三三三	三三三	〇	盛	蠶	六八	六四	四
白	鶴	八	八	〇	カ	リ	三六	三四	二
白	玉	七八一	七九	二	大	又	二〇	二〇	〇
白	龍	二三四	二二六	八	大	ス	四	三	一
富	士	二四三	二二八	一四	大	石丸	二	二	〇
富	士	三八	三七	一	小	金丸	二	二	〇

三浦	三浦	種ヶ島	計
九六	七五	七八	七三
五七	五六	五八九九	五五三三
			三六七

同府縣別

府縣名	検査總數	合格數	不合格數
福井	四四四二	四一四六	二九六
長野	三六	三五	一
京都	五	五	〇
山形	一三七三	一三七七	四
滋賀	四一	一七	二四
北海	一	一	〇
富山	五八九九	五五三三	三六七
計			

二。化性成績

名稱	検査總數	合格總數	不合格數	名稱	検査總數	合格總數	不合格數
玉無	一一四	一〇六	八	信濃	一一	九	二
銀白	八四	四四	四〇	大白	三	二	一
改正	八五	八五	〇	計	三九八	三四八	五〇
珍蠶丸	一〇二	一〇二	〇				

二。化性ハ福井縣ノミニ屬シ他府縣ノ分ハ検査セズ
 農事試験 本會農事試験場ニ於テ明治四十年中試験ヲ行ヒタルモノ、重ナル種類ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 水 稻 (種類試験)
- 品種試験、 移植試験、 堆肥施用期試験、 燐酸肥料施用期試験、 綠肥効顯比較試験、 豊凶考照試験、

肥料用量試験、石灰地方消耗作用試験、其他模範試作

(一) 麥作試験

大麥品種試驗

(二) 蔬菜類品種試驗

瓜哇薯試驗、葱頭試驗、甘藍試驗、蕃茄試驗、葱試驗、蘿蔔試驗、漬菜試驗

種苗配布

作物種類改良ノ必要ヲ認メ累年種苗ノ配布ヲナシ來リシカ明治四十年年度ニ於テ篤志栽培希望家ニ無代配布セシモノヲ舉
クレハ左ノ如シ

果樹苗總數 八百七十七本

蘋果 三百八十五本

梨 二百九十二本

桃 二百本

水稻種子 三百五斗〇六合

分析

肥料取締規則施行細則ニ依リ肥料分析ノ依頼ニ應ジ分析シタルモノ左ノ如シ

一 肥料定量分析 十五件

農事試驗場用トシテ分析施行ヲ爲シタルモノ左ノ如シ

一 肥料 六十一件 一 作物 百四件

野鼠驅除

明治四十年年度ニ於テ野鼠窒扶斯菌ヲ培養シ配布シタル菌數ハ六千五百三十本ニシテ驅除施行ノ面積反別ハ六百五十三町
歩ナリ

畜産

(一) 養豚 明治三十四年度七塚原種牛牧場ヨリ「パーシヤイア」ノ種豚ヲ求メ爾來之カ蕃殖普及ヲ圖リツ、アリ乃チ明
治四十年年度ニ於ケル現況ヲ舉クレハ左ノ如シ

牝牡ノ別	原數	生殖	拂下	屠殺	斃死	年度末現在
牝	三	二	五	四	一	五
牡	四	五	三	二	一	四

計

七

一七

八

六

一

九

(二) 家 禽

黑色「ミノルカ」種ヲ專養シ種卵及雛鶏ヲ拂下ケツ、アルモ希望者多キ爲メ其希望ノ十分ノ一ヲモ充タス能ハサル實況ナリ乃チ明治四十年度ニ於テ拂下ケタル種卵ノ數ハ七百四十四顆ニシテ之ヲ前年度ニ比スレハ二百五十八顆ヲ増加セリ

昆蟲ノ飼育及驅除試験

螟蟲加害ノ程度及發生時期各種誘蛾燈ノ効力並各種殺蟲劑等ニ付其調査ヲ重キツ、アリ
土功レール貸與

明治四十年度ニ於テ土功レールヲ貸與セシ箇所十二箇所數量二萬七百二十七尺ナリ

福井縣工業試驗場事業功程

地所及建物ノ坪數 (明治四十年十二月三十一日)

地所ハ福井市簸川中町及ヒ吉田郡圍山西村松本地方ニ跨リ其坪數總テ三千坪ナリ

建物ノ重ナルモノハ工場、汽罐室、事務室、職工休憩所及ヒ土藏ヲ五棟ニシテ門ノ正面ニ玄關(二坪)アリ次ニ二階造リノ事務室(二十四坪)及職工休憩所(十五坪)アリ又其後方ニ長方形ノ工場(二百坪)ト汽罐室(二十三坪)アリ而シテ土藏ハ事務室ノ東南ニ位シ四間ニ五間ノ二階造ニシテ其他便所廊下等ヲ合セテ總建坪數三百七坪ナリ

据付器械ノ種類及員數

一 生 絲 繰 返 機	一 三 臺
一 同 再 繰 返 機	一 一 臺
一 合 絲 糊 付 機	一 七 臺
一 合 絲 機	一 二 臺
一 平 田 式 機	一 一 臺

試驗成績

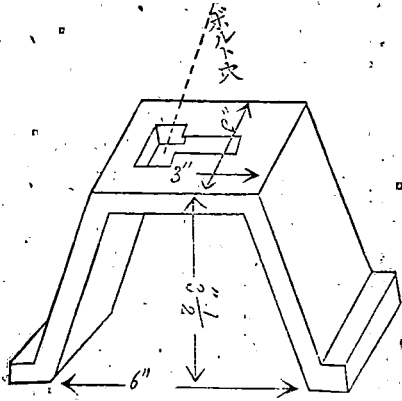
- 一 博ヒン卷機
- 一 整經機
- 一 生絲管卷機
- 一 練絲管卷機
- 一 力織機
- 一 耳整經機
- 一 手織機
- 一 糊付機
- 一 汽動機
- 一 傳動機

- 一 式
- 一 個
- 一 三
- 一 四
- 一 五
- 一 二
- 一 三
- 一 三

力織機据付ニ關スル試驗

目的 總鐵製力織機ノ据付ニハ通常臺石ニ孔ヲ穿チ之レニ「ボルト」ヲ通シ「コンクリート」ニテ地上ニ固定シ此ノ「ボルト」ニ機臺ノ「フレーム」ヲ縲着スルカ又ハ耐久性ノ木材ヲ地中ニ埋メ之レニ「ボルト」ヲ以テ縲着スルニアリ故ニ据付費少ナカラヌ即チ此レカ簡易ノ方法ヲ求メントスルニアリ

方法 鑄鐵ヲ以テ左圖ノ如キモノヲ作り之レヲ靴石ニ代用セリ而シテ之レヲ本場構内野澤屋摸範工場六十臺ノ織機ニ試用セリ但之レヲ「コンクリート」ニテ地上ニ固定スルハ石ノ場合ニ同シ



成績 廉價ニシテ据付及取付トモ頗ル簡單ニシテ且堅固ナルコト靴石ニ優リ成績佳良ナルヲ認メタリ

重目羽二重製織ニ關スル試験

目的 重目羽二重ハ何レノ力織機ニ依ルモ腰ノシマリ弱ク又之レカ爲メ方言「チカ」ト稱スル缺點ヲ出スヲ常トス即チ此ノ缺點ヲ補ハントセシニアリ

方法

經緯共二十四「デニール」半

經絲密度二本合絲一目四本入

丈尺織上リ巾二尺五寸延長十二丈

織高十時間三丈二尺

右ハ經絲送出シ裝置ヲ使用シタル上ニ更ニ卷節ノ兩端ニ「ブレーキ」裝置ヲ加ヘタリ

成績 試験ノ結果良好ニシテ十付以上ノ重目物ニハ「ブレーキ」裝置ヲ併用スルノ必要ヲ認メタリ然レトモ十五付以上ノ平地ヲ織ル場合ハ此ノ方法ニ依ルモ尙「チカ」ノ生スルコトアリシヲ以テ引續キ試験中ナリ

絹モスリン製織試験

目的 本品ハ海外輸出品トシテ將來有望ナリトシ各地此レカ試製ニ從事スルモノ少ナカラス本縣ノ如キモ殊ニ研究スヘキ必要アルモノト認メ即チ製織方ニ就キ明治四十年一月以降試験ヲ行ヒタリシカ今ヤ殆ント其ノ目的ヲ達シタルヲ以テ其ノ方法ヲ左ニ記載ス

方法

經 緯 共三十四「デニール」片撚

箴密度 鯨一寸間百廿枚一目一本通シ

耳羽 二十五枚一目八本入

量目 十二丈物百四十四匁

機 臺 「チュードリツシ」會社製

右撚絲ハ名古屋市帝國撚絲株式會社ノ製品ヲ用ヒタリ本品ハ精良ナル原絲ヲ撰用スルコト最モ緊要ナル事項ニシテ本試驗ニハ價格十貫目ニ付千五拾五圓五拾五錢(明治四十年三月相場)ノ生絲ヲ用ヒタリ又同品ハ撚數多キヲ以テ直ニ之レヲ用ユレハ縮上リテ取扱ニ困難ナルヲ以テ此不便ヲ補フ爲メ次ノ糊ヲ施シタリ

箴 密 度 鯨一寸間八十枚

緯 絲 密 度 六本引揃、鯨一寸間百二十本

練 上 量 目 六百五十八匁

機 臺 「チュードリツシ」會社製

撚 數 長 サ 一「メートル」ニ付二千五百回

緯 打 込 數 鯨一寸ニ付百二十本

丈 尺 織 上 巾 二尺五寸延長十二丈

製 織 高 一日十時間四丈

水 一 升
 麥粉 二十 匁
 白蠟 四十 匁

右ノ混合物ヲ半煮トナシ經絲緯絲共ニ之ヲ施セリ

成績 試驗結果佳良ニシテ輸出商等ノ批評亦可ナリシト雖モ尙一層技術ノ進歩ヲ圖ランカ爲メ引續キ試織中ナリ

縞モスリン製織試驗

目的 印度輸出品トシテ有望ナルヲ以テ之レカ試驗ヲ爲セリ

方法 縞經絲十四「メートル」二本諸撚數「メートル」五百回篋一目四本入地經絲及緯絲全部二「メートル」二千回ノ片撚ヲ

用ニ其他ハ前項ト同一ナリ

成績 試驗ノ結果佳良ナリ

以上二項ノ試驗ニ於テ無地「モスリン」ハ撚數二千五百回以上三千回ニ近クニ於テ製品倍々佳良ニシテ縞「モスリン」ハ二千回以下千五百回ニ近キ方成績可ナルヲ認メタリ

練羽二重ニ附着セル柿澁汚點除去試驗

目的 秋季ニ際シ柿又ハ栗澁ノ生羽二重ニ附着セルモノ精練ノ後一層濃色ヲ呈シ汚點トナリ從來之レカ除去法ヲ知ラザル爲メ當業者ノ損害少ナカラサルノ故ヲ以テ練業者ヨリノ依囑ニヨリ之ヲ行ヒタリ

方法

冷 水

磷酸アンモニア

三「グラム」

前記ノ割合ヲ以テ過酸化「ソーダ」ノ晒白液ヲ作り普通ノ方法ニヨリ此内ニ汚點ノ部分ヲ浸シ暖室内ニ放置スルコト一夜

次ニ新ニ同量液ヲ作り又浸スコト一夜次ニ此ノ液ニ各藥品一割ツツヲ増加シテ又此内ニ放置スルコト八時間ニシテ水洗

成績 第一回ニ於テ色相約三分ノ一ヲ薄ラギ第二回ニ於テ僅ニ色相ヲ認メ第三回ニ於テ殆ント白色ニ近キモノヲ得タリ

羽二重準備機械ノ各生産力及所要職工數ニ關スル試驗

從來加工依頼ニ應セン原料ハ常ニ多種不同ノ小口物ノミナリシヲ以テ數量潤澤ナリシニ關セス下拵即チ繰返シ、糊付、整經、等ノ工程上徒ニ手數ヲ要シ隨テ理論上ニ於ケル生産力ハ常ニ實際ト懸隔アリ之レカ接近ニ苦心セシモ容易ニ其成績ヲ得ルニ至ラス途ニ其機械ノ眞價ヲモ疑ハサルヲ得サラシメタリ然ルニ明治四十年七月以降一定ノ原料ヲ多量ニ引續

硫酸(ボトメー六十六度)

過酸化(ソーダ)

七「グラム」

八「グラム」

キ加工シ得ルニ至レリ今其成績ヲ擧クレハ左ノ如シ
 第一、繰返シ 從來繰取ニ於テ平均職工一人ノ所持ハ四十窓ヲ最高トシ以テ十時間ノ生産高ハ生絲八百匁ニ過キサリ
 シニ現今ハ一人ニシテ六十窓ヲ所持チ同一時間ニ一貫五百匁ヲ繰取ル事容易トナレリ
 第二、糊付 該機ハ今春以來改良ヲ加ヘタル結果ト原料ノ一定セシ爲メ約二倍ノ生産力ヲ見ルニ至レリ
 第三、整經 從來一臺十時間ニ於ケル生産力ハ壹尺八寸巾三十二疋ヲ最高トセシニ現今ハ貳尺四寸巾ニシテ同壹疋敷
 ヲ整經シ得ルニ至レリ
 今各機械ニ於ケル平均生産力ヲ擧クレバ左ノ如シ

機 械 ノ 種 類	一臺ノ窓數 又ハ錠數	摘 要	絲ノ種類	デニール	操業時間	生 産 數 量
ガユードリツシ式 生 絲 繰 返 機	四〇	二本合セ	生 絲	一四	一〇	九八九 四〇〇
ガユードリツシ式 合 絲 機	二〇	三本合セ 四本合セ 五本合セ 六本合セ	同	一四	一〇	六四〇 九〇〇 一一〇〇 一三〇〇
本場改良品 合 絲 糊 付 機	二〇	二本合セ一度糊	同	一四	一〇	七五五
本場製作 糊 付 機	五〇	合絲機ニテ合絲シ タル二本合セノモノ	同	一四	一〇	八五一
ガユードリツシ式 再 繰 返 機	七六	二 度 糊	同	一四	一〇	一四〇〇
同 ホ ビ ン 卷 機	八〇	二重用二本合絲	同	一四	一〇	三〇〇〇
同 緯 絲 管 卷 機	七五	薄 絹 用 壹 本	同	一四	一〇	一六二〇
同 整 經 機	七五	羽 二 重	同	一四	一〇	九九〇

第四、緯絲管卷機 以上記スルカ如ク一面ニ於テハ生産力ノ増加ヲ認メ得タルト同時ニ他ノ一面ニハ其ノ缺點ヲモ岐
 見スルコトヲ得タリ即チ前記本場備付ノ「チユードリツシ」式緯絲管卷機ハ從來生絲管卷機トシテ適當セル者ト信シ

居リシガ最近加工ノ増加セル爲メ傍ヲ福井製手織用管卷機(ニ臺六本)ヲ用ヒテ其補トセリ此結果偶然兩者ノ生産力比較上ニ於テ後者一臺ハ能ク前者十五鍾ニ相當スル生産力ヲ有スルコトヲ發見セリ之レ前者ハ元來乾キ緯ノミヲ目的トシテ製作セラレタルヲ以テ直チニ羽二重ノ如キ濕シタル糸ニ應用スルトキハ回轉度數迅キニ失シ反テ切斷數ヲ多カラシメ原料粗惡ノ場合ニハ益此缺點ヲ生シ加フルニ多數ノ鍾ヲ有スル爲メ故障ノ生スル度數モ増加シ爲メニ取扱上無益ニ時間ヲ消費セラル、事情アリテ之レカ原因ヲ爲スヲ認メタリ

以上記スルノ外目下需用多キ一本經糊付ケニ關シテハ機械ニ工風ヲ加ハタルト一方糊ヲ改良シタルトノ結果再繰返シノ工程ヲ省略シ糊付ケ「ボヒン」ノ儘直チニ整經「ボヒン」ニ卷取ルコトヲ得タリ此目的ハ更ニ進テ一本經ノモノハ綿織物ノ如ク整經臺ニ於テ糊付乾燥ヲ同時ニ行ハシメ以テ本工程ヲ迅速ナラシメント欲スルニアリ此等試驗ノ成績ハ他日ノ發表ニ讓ル之ヲ要スルニ將來力織機ニ對スル準備機械及同工程上ノ研究ハ多クニシテ亦忽諸ニ付スヘカラサルヲ以テ本場ハ益之レカ試驗ヲ怠ラス

羽二重製織ニ關スル目付試驗

本試驗ハ計算上ヨリ豫定セル目付ト實際出來上リノ目付トノ關係ヲ知ラント欲スルニアリ其成績左ノ如シ

經緯	第一回	第二回	第三回	第四回
經 絲	十四デニール	十四デニール	十四デニール半	十六デニール半
緯 絲	十四デニール	十四デニール	十四デニール	十九デニール
經 緯 密 度	二本合糸一目二本入	二本合糸一目二本入	二本合糸四本入	二本合糸一目二本入
緯 絲 密 度 (鯨一寸間)	二本引揃二百十本	三本引揃二百十本	六本引揃百四十四本	三本引揃百五十本
筈 密 度 (鯨一寸間)	百枚	百枚	八。十枚	百枚
引 通	巾 二尺六寸	二尺六寸	二尺六寸	一尺五寸
延 長	十丈二寸	十丈二寸	二丈五寸	二丈四尺
織上リ高 (十時間)	二丈五尺	二丈四尺	二丈五尺	二丈五尺
機 臺	チユードリックン會社製	チユードリックン會社製	チユードリックン會社製	木本鐵工所製
豫 定 目 付	六。付	八付	十。二付	九。付
實 際 目 付	七。付	九付	十。三付	九。付

平田式力織機試用成績

据付 明治四十年五月

價格 壹臺 四拾圓

製作所 福井市本多工場

構造 半木製ニシテ製作簡單ニシテ特別ノ送込シテ裝置アリ平地尺八寸物製織用ニシテ從來手織用ノ竹伸子ヲ用ヒ

製造 該機ニヨリ試織シタル織物ハ輕目羽二重及薄絹ニシテ結果良好ナリシモ重目物ノ製織ニハ不適當ナリト認

製織力 輕目羽二重(五付半)十時間三丈 薄絹 十時間四丈

針金綜統使用試驗

本試驗ハ野澤屋摸範工場ノ依囑ニヨリ同場ヨリ提供シタル佛國製三十三番三十三センチメートルノ針金綜統ニシテ其

耐久力及使用上ノ成績ヲ知ラント欲セシニアリ。前記綜統ヲ平田式力織機ニ裝置シ薄絹十二丈物四本ヲ織リ上ケタルモ少シモ破損ナク又經絲ノ切斷ニ及ホス影響モ普通

カタシ織製無双綜統ト大差ナシ然レトモ經絲切斷ノ際引通シ不便ニシテ爲メニ製織力ヲ削減セラル、コト多シ但織工ノ同品取扱ニ對スル不熟ノ點多キヲ以テ未タ俄ニ其眞價ヲ評スヘキニアラス故ニ尙ホ試驗ヲ繼續中ナリ

糊付生絲ノ伸度及強力試驗

本試驗ハ野澤屋摸範工場ノ依囑ニヨリ各種糊ノ生絲ニ及ホス伸度及強力ヲ比較セシニアリ本試驗ニ供セシ生絲ノ種類及糊ノ調製差ノ如シ

生絲 十四デニール

第一糊 水一升ニ付布糊十四匁 蠟、八匁

第二糊 同 十四匁

第三糊 同 同 十匁 アムローセ、四匁

第四糊 同 同 十匁 フアリナ、四匁

以上四種ノ糊ヲ前記生絲ニ施シ伸度強力計ニヨリテ各八回宛試驗セリ其平均數ヲ擧レハ次ノ如シ

伸度	生	絲	第一糊	第二糊	第三糊	第四糊
強力	106.115	90.37	101.75	104.62	90.50	90.50
	38.25	30.12	37.62	36.62	29.50	

以上ノ結果ニ依ル時ハ糊付絲中伸度ハブロー糊大ニシテ強力ニ布糊大ナリ
 糊付ノ爲メ強力及伸度カ生絲ヨリ小トナル結果ヲ呈セシハ如何ナル理由ニヨルカ未タ研究中ニ屬スト雖トモ察スルニ
 生絲ヲ硬化スル爲メニ因ルナラン而シテ實際製織上生絲ヨリ糊付セシモノ切斷ノ多カラサルハ是レ綜統及箴ノ摩擦ニ對
 シ保護セラル、ニ依ルカ爲ナラン

毛絲モスリン製織試驗

此試驗ハ武生町谷尾藤助氏ノ依頼ニヨリ同氏提供ノ原絲ヲ以テ試織セシニアリ
 方法

經絲密度五十四番手 一目二本入

緯絲密度六十四番手 鯨一寸間七十二本

箴密度 鯨一寸間三十八枚

織上リ巾 二尺一寸

同 長 五十ヤール

織上リ高 十時間 二丈

量 目 五十ヤール一疋七百匁

綜統ハ羽二重用無双綜統ヲ使用セシタメ經絲ノ切斷多ク織上ケモ不充分ナリキ但毛モスリン用自硝子綜統ヲ使用スレハ
 十時間二丈五尺乃至三丈ヲ製織シ得ル見込ナリ
 經絲ノ糊付ハ本場据付ノ糊付機ニテ左記配合ノ糊ヲ付ケ炭火ヲ以テ乾燥セシモノヲ卷取リ手織機ニ仕掛ケ試織モリ之レ
 カ糊ノ配合ヲ記スレハ左ノ如シ

水 一升

セラチン二十五匁

リスリン五匁

デキストリン三十匁

ロート油十匁

硫酸亞鉛三匁

成績 製品ハ品質佳良ニシテ成績良好ナリキ

洋服心亞麻布製織試驗

此試驗ハ福井市豊島下町長谷川嘉兵衛氏依頼ニヨリ同氏ヨリ持參ノ原絲ヲ以テ試驗ス由來本品ハ輸入額毎年數拾萬圓ヲ下ラス故ニ同氏ハ之レカ防遏品トシテ本縣武生及鯖江町附近蚊織業者ヲシテ爾來八箇年ノ久シキ普通高機ヲ以テ手織ニヨリ試織シツ、アリシト雖トモ緯絲密度不平均即チ織「ムラ」ヲ生シ到底輸入品ニ類似スル能ハス而シテ若シ力織機ヲ應用セハ其ノ欠點ヲ補フコト明ナリト雖トモ該原絲ハ經緯トモ額節多ク爲ニ力織機ニテハ切斷其他ノ故障ヲ生セサルカノ疑アルヲ以テ本場ニ其試驗ヲ請求セルニアリ

方法 原絲北海道製麻會社製亞麻紡績絲

經絲密度 四十番手一目一本入

緯絲密度 四十番手鯨一寸間七十二本

箆密度 鯨一寸間四十八枚

織上リ巾 二尺

同 長 六十ヤール

織減リ 六丈ニ付三尺

織上高 十時間五丈

機 臺 デユードロリツシ會社製力織機

成績 機臺ハ絹織用ナレハ亞麻織ニハ多少適セサルヲ認ム然レトモ若シ綿織力織機ヲ使用スレハ其目的ヲ達シ得ヘキヲ

認メタリ

糊付 総糊付ニシテ箆ハ竹箆ヲ用ヒタリ

綜統ハ羽二重用無双綜統ヲ使用セシタメ經絲切斷多ク從テ製織高モ不充分ナレトモ綿織用綜統ヲ使用セハ十時間七丈ヲ製織シ得ル見込ナリ

製品ハ品質佳良ニシテ輸入見本ニ比シ大差ナキヲ得タリ

羽二重經絲糊付試驗

目的 製織ニ便ニシテ精練ニ無害ナル糊ヲ得ントス

糊ノ調製

甲 水 一升
 布 糊 千四匁
 白 絞 一匁
 デキストリン 二匁

乙 水 一升
 布 糊 十四匁
 白 絞 一匁
 晒 膠 二匁

此兩種ノ糊ヲ羽二重經絲ニ施シタルモノヲ次ノ法ヲ以テ製織セリ

經 絲 十六デニール

緯 絲 十四デニール

經 密 度 一目二本入

緯 密 度 三本引揃鯨一寸間二百十本

箎 密 度 鯨一寸間百枚

機 臺 チエードリツジ會社製

成績 製織上ニハ從來ノ糊ヲ使用セルモノニ比シ大差ナシ精練上兩種ノ糊ノ及ホス影響ノ差異ハ製品甚タ僅少ニシテ精練セサルヲ以テ未タ其結果ヲ試驗スルヲ得サリキ

縞モスリン製織試驗

目的 縞モスリンハ從來外國製力織機又ハ内地手織機ヲ以テ製織セルモ未タ内地製力織機ニテ製織スルアルヲ聞カス故ニ今回該機ヲ應用シテ試織ヲ爲セリ

方法

經緯共ニ 十四デニール

經 密 度 地糸一目一本入
 縞糸一目四本入

緯 密 度 打込數鯨一寸ニ付百八本

箎 密 度 鯨一寸間百五枚

製 織 高 十時間三丈

機 臺 平田式

原料ハ經緯共ニ名古屋市帝國燃絲株式會社製ノ燃絲ヲ用ヒタリ燃數ハ一米ニ付千五百回ナリ縞絲ハ諸燃ニシテ上燃一米

ニ付五百回下撚一米ニ付六百回ノモノヲ用ヒタリ尙製織ニ便スルタメ次ノ糊ヲ施シタリ

水 一升 麥粉 二十匁 フアリナ 四十匁 白蠟 二匁

右ノ混合物ヲ半煮トナシ經絲ニ施シタリ

水 一升 アスビヤコム 五匁 ヲリーブ油 一匁

右ノ混合物ヲ糊糊付ニテ緯絲ニ施シタリ

成績 製織上別ニ故障ヲ認メヌ又織上リ製品ハ手織品ニ讓ラス且製産額大ナルノ利アリ

合 絲 試 驗

本試驗ハ合絲ノ方法ニヨリ製織上ニ及ホス形響ヲ知ラント欲シ原絲ハ十四デニールノ生絲ヲ以テ窓數二十ノ合絲機ニテ試驗セリ其結果左ノ如シ

操 業 時 間		二 本 合	三 本 合	四 本 合	五 本 合	六 本 合
甲	出 切 來 斷 高 數	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分
乙	出 切 來 斷 高 數	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分	一 時 〇 〇 分

表中甲ハ手數ヲ省キ三本合ハ二本合絲ト一本トヲ合セ四本合セハ二本合絲ニツヲ合セ五本合ハ三本合絲ト二本合絲トヲ合セ六本合ハ三本合絲ニツヲ合セタルナリ乙ハ同時ニ一本ノ生絲ヲ二本、三本、四本、五本、六本ト夫々合セタルナリ

着尺羽二重製絲試驗

本試驗ハ從來本縣當業者カ本品ノ製織ニ從事スルモノ少ナカラス其産額毎年參拾萬圓ヲ下ラス然レトモ其製品越後羽二重ノ如ク佳良ナラス隨テ利益少ナク且販路擴張ノ望ナク當業者自ラ此レカ改良ヲ企ツルモノ多シト雖トモ未タ其製織法ヲ得タルモノナキヲ以テ本場ハ此レカ模範ヲ示サント欲シ即チ五泉羽二重ノ製織法ニ模範ヲ資リ試驗セシニアリ

機 臺 福井製手織機

原 絲 產地周防國城北館製絲八呎鏡印

原料價格 十貫匁ニ付金七百五拾五圓

經 絲 十四テニール 十本合セ 箄 密度鯨一寸ニ付百枚一目二本通シ

緯 絲 十四テニール十二本合セ打込鯨一寸ニ付九十本

箄 福井市尾上下町加藤常次郎製金箄

丈 尺 練上リ巾一尺同長六丈

量 目 一疋二百五十二匁目付二十五

製産高 一日十時間平均二丈三尺

成績 同業者間ノ定評佳良ナリ

薄絹ロール掛適否試験

本試験ハ本縣ヨリ輸出羽二重精練業法施行規則實施上薄絹ロール掛ノ適否ヲ試験スヘキ様照會ニ依リ實驗セル成績ナリ

方法 同試験ニ供スル爲メ殊ニ市内當業者ノ製織ニ係ル左記三種ヲ本場ニ於テ購入シ之レニ本場製作品ヲ併セ市内黒川

羽二重精練工場ニ於テ同場備付機械、機具及職工ヲ以テ試験セリ

試験ニ供シタル薄絹ノ品質左ノ如シ

一	二	三	四	丈 尺	巾	生絹ノ量目	經 絲ノ密度	製 作 所
號	號	號	號	廿二丈	二尺四寸	百五十八匁	箄齒八十枚一目二本通シ	松島機業場
同	同	同	同	同	同	百六十九匁	同	同
同	同	同	同	同	同	百五十三匁	同	同
同	同	同	同	同	同	百二十五匁	箄齒七十枚一目二本通シ	本場

以上試験ノ結果同品ハ何レモ精練、水洗、仕上等總テノ場合ニ於テ最モ丁寧ニ注意シテ取扱ハサレハ忽チ經、緯共ニ目寄リヲ生シ指頭若クハ他物ノ強ク觸ル、コトアルモ尙其部分ノ經絲又ハ緯絲波紋狀ヲ來スナリ故ニロール掛ノ際ニ下巻工程ノ不完全ナルカ或ハ霧吹ノ濕氣ニ不均アル場合ニハ織巾全体ニ亘リ緯絲ノ波狀ヲ生スルニアリ然レトモ製品ノ光澤及味等ニハロール掛ノ爲メ差支ヲ生セサルノミナラス寧ロ伸子張リニ劣ラサルヲ認メ得タリ故ニ下巻機ニ多少ノ改善ヲ施シ又霧吹ノ平均ニ注意シ相當ノ熟練ヲ積マハ之レカ爲メ甚シク時間ト勞力ニ冗費ヲ要セサルモ川俣絹同様に仕上

ケヲ行フコト出來シ難キニ非ラス即チロール掛ヲ絶對ニ不可能ト認ムル能ハサルナリ

羽二重製織上工場の經濟試驗

本試驗ハ本場内野澤屋模範工場ヲ利用シ大阪木本鐵工場製鐵製力織機六十臺ニ對スル營業的試驗ヲナスヘク其成績ヲ調査シタルモノナリ

第一 羽二重製産力成績表

種類別	箆鯨一寸間密度	緯鯨一寸間密度	十二時間織上高	受持臺數	受持臺數	人員
加賀羽二重	同 百	同 百七十四本	四丈二尺	一臺	持	一人
同 薄絹	同 八	同 百八本	三丈二尺	一臺	持	一人
同 川俣羽二重	同 百	同 百七十四本	六丈七尺	二臺	持	一人
同	同 百	同 百七十四本	五丈二尺	一臺	持	一人
同	同 百	同 百七十四本	四丈八尺	二臺	持	一人

第二 管捲機製産力成績表

種類別	十二時間ノ出來高	錘數	受持臺數	人員
一本 緯	四百八十匁	四本 錘	一臺	一人
同 二本引揃緯	六百八十匁	六本 錘	同	同
同	六百八十匁	四本 錘	同	同
同	八百五十匁	六本 錘	同	同

該機ハ福井市本山製ニシテ本製一臺四本錘及六本錘ノ兩者ヲ就テ得タル成績ナリ而シテ本機ハ羽二重緯絲管捲機トシテ其成績佳良ナルヲ認メ得タリ

製織品

種目	幅	依 頼 加 工 場 用 加 工													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	
羽二重	尺八寸	一疋													一〇疋
	二尺四寸														三八
薄 絹	尺八寸														六
	二尺四寸														三
絹モスリン	尺三寸二巾														一
	尺五寸五巾														四
ハンカチーフ	二尺四寸														二
	二尺四寸														三
	尺五寸	七三枚													五八枚
			七〇枚												三〇枚
				二枚											二枚
					三六枚										四三枚
						七三枚									四三枚
							四五枚								四五枚
								七三枚							七三枚
									三六枚						三六枚
										四三枚					四三枚
											二枚				二枚
												一枚			一枚
													五三枚		五三枚
														五二枚	五二枚

加工品 依頼加工及場用加工
 明治四十年 依頼加工及場用加工ニ於ケル營業者ヨリノ加工依頼ヲ受ケシ數量及本場用トシテ加工セシ數量並ニ前年度ノ比較左ノ如シ

種別	四十年			三十九年			三十年		
	數	量	依頼人員	數	量	依頼人員	數	量	依頼人員
整 經		二〇九五疋	三		九六〇疋	三九		七九疋	二九五疋
線 採		一三四六〇一疋	一三		五五二〇九五疋	一八七		二二九九九疋	六七七五三疋
綜 統		一八六疋	四		六五疋	二二		一一疋	三〇疋

其他ノ事業
 明治四十年 度ニ於テ縣内外ノ機業者及練業者等ヨリ織物及精練業ニ關スル質疑ヲ受ケ又ハ鑑定ノ依頼ニ應シタルモノノ總テ百九十六件ニシテ之ヲ類別スレハ左ノ如シ
 一 色染及ヒ仕上ニ關スル質疑鑑定 四十九件
 一 織物業ニ關スル質疑鑑定 六十八件
 一 機械ニ關スル質疑鑑定 七十九件

勸業ニ關シ發シタル令達

明治四十年

令達名	令達番號	月日	件名
縣令	第一號	一月七日	明治三十八年 ^{十二月} 福井縣令第三十七號產米取締規則中改正
同	第七號	二月十一日	福井縣工業講習所規則
同	第十二號	二月二十六日	明治三十二年 ^{四月} 福井縣令第二十六號森林法施行手續中改正
同	第二十六號	五月六日	馬匹去勢施行手續
同	第三十二號	六月六日	輸出米檢查規則 <small>(明治三十七年十月福井縣令第五十一號輸出米規則廢止)</small>
同	第三十六號	六月二十六日	輸出米檢查手續規則
同	第三十八號	七月一日	度量衡取締規則中改正
同	第三十九號	七月一日	種牡牛檢查出願手續
同	第五十一號	十月一日	明治三十五年 ^{七月} 福井縣令第六十三號漁業取締規則中改正
同	第五十二號	十月一日	明治三十二年 ^{七月} 福井縣令第六十九號捕獲禁止ノ漁類及制裁中改正
同	第五十三號	十一月一日	耕地整理調查設計及工事監督ニ關スル規則
同	第五十八號	十一月二十六日	明治四十年 ^{六月} 福井縣令第七號工業講習所規則中追加
同	第五十九號	十二月一日	明治四十年 ^{六月} 福井縣令第三十二號輸出米檢查規則中改正
同	第六十八號	十二月二十六日	明治三十九年 ^{七月} 福井縣令第三十五號屠場法施行細則中改正
告示	第四號	一月十一日	明治四十年中臨檢ニ於テ合格シタル度量衡器ニ附スヘキ臨檢濟ノ印設定
同	第五號	一月十一日	蠶病豫防吏員罷免
同	第六號	一月十一日	漁業原簿登錄
同	第十一號	一月二十一日	保安林ニ編入セサル土地
同	第十三號	一月二十一日	明治四十年臨時種牡牛檢查合格證明書下付
同	第十四號	一月二十一日	保安林編入
同	第十五號	一月二十一日	明治卅九年 ^{四月} 福井縣告示第四十八號第九回關西府縣聯合共進會規則中改正

令達名	令達番號	月	日	件	名
告	第十九號	二月	一日	漁業原簿登錄	
同	第二十二號	二月	六日	保安林編入解除森林會へ付議ノ件	
同	第二十四號	二月	十一日	福井縣工業講習所設置	
同	第二十六號	二月	十六日	福井市度量衡器臨檢施行日割	
同	第二十八號	二月	十六日	漁業休業認可	
同	第二十九號	二月	十六日	漁業原簿登錄	
同	第三十號	二月	十六日	第九回關西府縣聯合共進會本縣事務所開設	
同	第三十三號	三月	一日	保安林解除	
同	第三十八號	三月	十一日	石川種馬所ニ種牡馬ノ種付ヲ出願シタルモノ、牝馬檢査期日及其場所	
同	第四十號	三月	十六日	東京高等商業學校附設商業教育養生所生徒募集	
同	第四十二號	三月	十六日	漁業原簿登錄	
同	第四十五號	三月	二十一日	蠶病豫防吏員罷免	
同	第四十六號	三月	二十一日	漁業組合設置認可	
同	第四十八號	三月	二十六日	種牡馬ノ檢査ヲ出願シタルモノ、牡馬檢査期日及其場所	
同	第五十號	三月	二十六日	漁業原簿登錄	
同	第五十八號	四月	一日	東京高等工業學校附設工業教員養生所生徒募集	
同	第六十二號	四月	六日	本縣蠶病豫防吏員任命	
同	第六十三號	四月	十一日	明治四十年度畜牛結核病檢査期日及區域	
同	第六十六號	四月	十一日	下瀬漁業組合事務所位置變更認可	
同	第六十七號	四月	十一日	漁業原簿登錄	
同	第六十九號	四月	十六日	保安林編入	
同	第七十號	四月	十六日	保安林解除	
同	第七十一號	四月	十六日	漁業原簿登錄	

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

第七十三號	第七十四號	第七十五號	第七十七號	第七十八號	第七十九號	第八十號	第八十二號	第八十三號	第八十四號	第八十五號	第八十七號	第八十二號	第九十九號	第百號	第三百號	第三百五號	第三百七號	第三百八號	第三百九號	第一百十號	第一百十三號	第一百十四號	第一百十九號	第一百二十一號
四月二十一日	四月二十一日	四月二十一日	四月二十一日	四月二十一日	四月二十六日	四月二十六日	五月一日	五月一日	五月一日	五月一日	五月六日	五月十一日	五月十一日	六月一日	六月一日	六月六日	六月六日	六月十六日	六月十六日	六月十六日	六月十六日	六月二十一	六月二十六日	七月一日

明治三十九年四月福井縣告示第四十八號第九回關西府縣聯合共進會規則中追加改正
 坂井郡內度量衡器臨檢施行日割
 蠶病豫防吏員命免
 漁業組合設置認可(鷹巢村濱漁業組合)
 種馬種村所位置及期日
 坂井郡內吉崎村外一町五箇村度量衡器集合臨檢施行日割
 保安林解除
 漁業原簿登錄
 福井縣蠶病豫防事務所支所及派出所開始
 吉田郡度量衡器集合臨檢施行日割
 漁業原簿登錄
 福井縣蠶病豫防吏員任免
 蠶病豫防吏員任命
 明治四十年度種牡馬檢查合格證明書下付
 敦賀商業會議所議員選舉
 漁業原簿登錄
 輸出米檢查員及產米改良督勵員採用規程
 實業講習會講師派遣ニ關スル規程
 東京及京都蠶業講習所講習生募集
 第九回關西府縣聯合共進會福井縣事務所閉鎖
 大飯郡度量衡器集合臨檢施行日割
 漁業原簿登錄
 蠶病豫防吏員任命
 輸出米檢查所及臨時派出所名稱位置
 足羽郡度量衡器集合臨檢施行日割

〇
錄

三八五

令達名	令達番號	月日	件
告示	第二百二十二號	七月一日	種牡牛検査期日及其場所
同	第二百二十六號	七月六日	敦賀商業會議所議員當選
同	第三百三十一號	七月十一日	漁業原簿登錄
同	第三百三十六號	七月二十六日	明治四十年 ^六 福井縣告示第百五號輸出米検査員及産米改良督勵員採用規程 中追加
同	第五百五十三號	八月二十六日	大野郡度量衡器集合臨檢施行日割
同	第五百五十四號	八月二十六日	蠶病豫防吏員任命
同	第五百五十八號	八月二十六日	漁業原簿登錄
同	第五百五十九號	九月一日	福井商業會議所議員選舉
同	第六十號	九月一日	蠶病豫防吏員任命
同	第六十一號	九月一日	福井縣蠶病豫防事務所各派出所閉鎖
同	第六十三號	九月一日	坂井郡濱四鄉村米納津漁業組合設置認可
同	第六十六號	九月十一日	保安林編入森林會附議
同	第六十七號	九月十一日	保安林解除森林會附議ノ件
同	第六十九號	九月十一日	定期種牡牛検査合格證下付
同	第七十號	九月二十一日	今立郡度量衡器集合臨檢施行日割
同	第七十五號	九月二十一日	漁業原簿登錄
同	第七十七號	九月二十一日	京都蠶業講習所養蠶科別科講習生募集
同	第九十三號	十月六日	本縣蠶病豫防吏員任免
同	第九十八號	十月十六日	福井商業會議所議員當選
同	第九十九號	十月十六日	度量衡ニ關シ農商務大臣ニ提出スヘキ諸願届書様式
同	第一百一十號	十月十六日	漁業原簿登錄
同	第二百十號	十月十六日	三方郡度量衡器集合臨檢施行日割
同	第二百一十一號	十一月十一日	敦賀郡度量衡器集合臨檢施行日割

同 第二百一十二號 十一月十一日 漁業休業認可

同 第二百一十三號 十一月十一日 漁業原簿登錄

同同同同同同同同同同同同同同同同

令 告

第二百十二號	十一月十一日	漁業休業認可
第二百十三號	十一月十一日	漁業原簿登錄
第二百十五號	十一月十六日	大飯郡内浦村神野浦漁業組合設置認可
第二百十六號	十一月十六日	漁業休業認可
第二百十九號	十一月二十六日	録録豫防吏員罷免
第二百二十六號	十二月六日	石川縣種馬所種付出願期日
第二百二十八號	十二月六日	漁業原簿登錄
第二百二十八號	十二月二十一日	福井市度量衡器臨檢施行日割
第二百四十號	十二月二十一日	福井縣蠶病豫防事務所 <small>大野南支所</small> 閉鎖
第一號	一月十六日	産米俵裝方法等ニ關スル注意
第二十三號	四月一日	福井縣工業講習所職制
第三十二號	六月六日	市町村産米審査規程標準
第三十六號	六月二十六日	輸出米検査手数料徵收手續
第五十二號	十一月二十六日	福井縣工業試驗場業務規程
第五十三號	十一月二十六日	福井縣工業講習所短期講習規程

○附錄



明治四十二年三月三十一日印刷

明治四十二年六月十日發行

福井縣

金澤市高岡町九十番地

印刷者 澤田助太郎

金澤市高岡町九十番地

印刷所 明治印刷株式會社

電話 二十九番

